公的事業がコミュニティ・カフェに与える影響と運営者による対応

HOW GOVERNMENTAL PROGRAMS INFLUENCE
COMMUNITY CAFE AND MANAGERS' METHODS
FOR MITIGATING DETRIMENTAL INFLUENCES高嶺翔太^{*1}, 後藤春彦^{*2}

Shota TAKAMINE and Haruhiko GOTO

This paper aims to clarify how governmental programs influence place called "Community Cafe" and managers' methods for mitigating detrimental influences. The results show the following:

- 1) Influences are recognized more when governmental programs are used for management.
- 2) Influences are different for each typology of positional relation between governmental programs and community cafe. In general, the governmental programs that do not share space constantly tend to be perceived as beneficially influential while those that do share space tend to be associated with detrimental influences.
- 3) Managers' strategies for reducing detrimental influences also differ for each positional relation typology.

Keywords : *Ibasho, Community cafe, Governmental program*

居場所, コミュニティ・カフェ, 公的事業

1. 研究の概要

1-1. 背景と目的

近年わが国では、人々の孤独・孤立が深刻化していることを背景に、「私的な場所でもなく、形式ばった場所でもなく、人が思い思いに居合わせられる場所。そして、新たに地縁を結びなおす場所」と表現される¹⁾「まちの居場所」に注目が集まっている。そして「まちの居場所」づくりが、数多く試みられている。

これら活動の多くは市民主体だが、2000年以降、国や地方自治体からの関与が増加している。具体的には、「地域子ども教室」、「つどいの広場」、「通いの場」など、関連する公的事業が拡大し、全国的に推し進められている。このような事業は、一般的に経営基盤の弱い「まちの居場所」づくりを支えること、新たな活動の後押しとなることが期待される。

しかし公的事業の拡大は、新たな懸念を抱かせる。それは運営・開設に関わる形で公的事業が実施されることによって、「まちの居場所」づくりの活動内容が各事業に沿ってすり替わることへの懸念である。例えば萩原は、「放課後子ども教室」が、それまで「地域子ども教室」によって生まれていた子どもたちの「居場所」を学校空間に囲い込み、性質を変化させてしまったと批判している²⁾。良悪いいずれにしても公的事業の拡大はわが国の「まちの居場所」づく

りに対して大きな影響を与えるため、慎重な舵取りが求められるのである。

この問題意識に対して本研究では、「まちの居場所」づくりの中でも、①利用者を限定せず、思い思いに過ごせる場の提供等を目的としているという点で、利用者や行為を限定する場合の多い公的事業と特に異なる、②取り組みが増加しており「まちの居場所」づくりを牽引していると考えられる、コミュニティ・カフェ（以下、C.C. と表記）の運営・開設に着目する。そして運営者が公的事業からどのような影響をうけていると認識しているかという点、悪影響の緩和のためにどのように利用者へ対応しているかという点、さらに一部の事例が公的事業を実施しない理由を明らかにすることを目的とする。そして、C.C. の普及に向けた支援のあり方について知見を得る。

1-2. 研究の方法

(1) 用語の定義

1) コミュニティ・カフェ

「利用者を限定せず、誰でも思い思いに過ごせる場所を提供し、他者との社会的接触の機会を提供する目的で運営・開設される拠点」と定義する^{注1)}。

2) 公的事業

「公費を原資とし、民間事業者への補助・委託・支払い等を含む

^{*1} 早稲田大学リサーチイノベーションセンター 研究助手・修士(建築学)

^{*2} 早稲田大学理工学術院 教授・工博

Research Assoc., Research Innovation Center, Waseda Univ., M.Arch.
Prof., Faculty of Creative Sci. & Eng., Waseda Univ., Dr.Eng.

形で国や地方自治体が実施する事業」と定義する。C.C. と異なり、国・地方自治体によって事業内容や利用者が限定されている。

3) 空間の「共用」

「C.C. と『公的事业』、双方の実施空間が同一空間上で重なること」と定義する。本研究では、C.C. と「公的事业」それぞれの活動・事業が実施される空間の位置関係に着目する。その際、C.C. の実施空間は、運営者の裁量によって柔軟に運営することが可能であり、属性によって利用者を限定しない空間である。一方「公的事业」の実施空間は公的事业の内容に沿い、特定の人々に対して行為を実施する空間である。事例によっては「公的事业」の行為をC.C. の実施空間で行う、つまり空間を「共用」することがある。

(2) 調査の枠組み

1) C.C. の構造

C.C. の運営者は運用／施設・設備といった方法で利用者に対応する。また近年では運営・開設を経済的に支える形で公的事业を実施している事例がみられる。このようなC.C. と公的事业の関係を構造的に示したものがFig.1である。本研究の着眼点は、図のうち、C.C. が公的事业から受ける影響と、悪影響を緩和するために運営者がとった利用者への対応である。

Fig.1 The focus point of the research

2) 先進的なC.C.

C.C. は大小様々に試みられており、それらすべてを把握することは不可能である。また本研究はそれぞれのC.C. が実践的活動の中で、公的事业の悪影響をうけてどう対応したかという点を明らかにするものである。よって一定程度継続していて、活動が充実している先進事例を対象とする。具体的な抽出方法は後述する。

3) C.C. の運営・開設を経済的に支えている公的事业

本研究では、C.C. の普及に寄与する公的事业として、運営・開設を経済的に支えている公的事业に着目した。それは経済的基盤の確立がC.C. の大きな課題であり、公的事业に期待される重要な役割はその支援だと考えたためである。

このような公的事业の例として、介護保険事業、医療保険事業、地域子育て拠点支援事業、空き家・空き店舗活用に向けた事業などが挙げられる。この中には、単に助成金・補助金ではなく委託金、報酬といったかたちでC.C. の経費を間接的に負担する事業も含まれる^{注2)}。またC.C. への影響が異なると考えられることから、運営、開設を支えている事業は分けて分析する。

4) 調査対象

先立って実施した全国アンケート調査（以下、先行調査と表記）の協力事例のなかでも、比較的活動が充実しており、かつ追加調査への協力を得られた25事例を調査対象とした^{注3)} (Table1)。なおこれら調査対象はもと「全国コミュニティカフェ連絡会」の掲載事例から抽出している。

(3) 調査方法

以下の3つの調査により構成される現地調査を実施した^{注5)}。

調査1) 公的事业の基本的実施実態に関する調査

開設時および調査時点における、C.C. の運営・開設を経済的に

Table1 Target Cases

Mark	Name	Location	Start year	Building type	Organization type	Main Contents
a	コミュニティ・カフェ COCODE Community Cafe Cocode	神奈川県 Kanagawa	2006	S	NPO	Food, SG, Event
b	元気スタンドふりズム Genkisutando Furizumu	埼玉県 Saitama	2007	S	Other	Food, SG, LS
c	コミュニティスペースくるくる Community Space Kurukuru	福島県 Fukushima	2008	S	NPO	Bus waiting room, SG
d	コミュニティサロン あまやどり Community Salon Amayadori	千葉県 Chiba	2006	S	NPO	Cafe, CA
e	さくら茶屋 西条 Sakura Chaya Nishisihba	神奈川県 Kanagawa	2010	S	NPO	Food, SG, Event, EC
f	エフ・エー・サロン FA Salon	大阪府 Osaka	2007	S	NPO	Cafe, Event
g	港南台タウンカフェ Kounandai Town Cafe	神奈川県 Kanagawa	2005	S	Inc.	Food, SG, Event, EC
h	くたみ共学舎 Kutami Shuugakusha Kai	熊本県 Kumamoto	2008	H	NPO	Event
i	ハナさんハウス Hanasan House	神奈川県 Kanagawa	1999	H	Indiv.	Cafe, CA
j	りくカフェ Riku Cafe	岩手県 Iwate	2012	S	NPO	Food, SG, Event
k	幸せの家・ありがとう Shiawase no Ie Arigatou	徳島県 Tokushima	2006	H	NPO	EC
l	コミュニティカフェ 幸茶店 Community Cafe Kousaten	埼玉県 Saitama	2011	S	NPO	Food, SG, Event
m	落合三世代交流サロン Ochiai Sanseda! Kouryuu Salon	東京都 Tokyo	2009	O	Other	Food, CW, Event
n	はぴびわん大府 Happiwan Oobu	愛知県 Aichi	2008	S	NPO	Food, Event
o	カフェ&ホール with you Cafe & Hall with You	東京都 Tokyo	2008	S	Indiv.	Food, SR
p	さわやかサロン Sawayaka Salon	山口県 Yamaguchi	2000	H	NPO	Event
q	地域の寄り合い所 また明日 Chiki no Yoriiaiyo Mata Ashita	東京都 Tokyo	2005	H	NPO	CW, EC
r	ほっとハウス Hotto House	京都府 Kyoto	2000	S	NPO	Food, CW, SG
s	ふれあいの居場所くずさんの家 Fureai no Ibasho Kuzusan no Ie	青森県 Aomori	2004	H	NPO	LS
t	老いも若きも Oimowakimo	滋賀県 Shiga	2005	H	SWC	Food, SG, SR
u	つむぎ倶楽部 Tsumugi Club	富山県 Toyama	2006	H	NPO	Food, LS
v	福祉亭 Fukushi Tei	東京都 Tokyo	2003	S	NPO	Food, CA
w	いこいの家 夢みん Ikoi no Ie Mumin	神奈川県 Kanagawa	1996	S	NPO	Cafe, CA
x	むくどりホーム Mukudori Home	北海道 Hokkaido	1995	H	Indiv.	CW
y	ふらっとステーション・とつか Furatto Station Totsuka	神奈川県 Kanagawa	2014	S	NPO	Food, CA, Event

abbrevi- ation	Building type	Organization type	Main Contents
H : House	Inc. : Kabushiki Kaisha	CA : Club Activity	LS : Life Support
S : Store	Indiv. : Individual	CW : Child Welfare	SG : Sale of Goods
O : Other	SWC : Social-welfare Corporation	EC : Elder Carve	SR : Space Rental

支えている公的事业を把握するため、運営者にヒアリングを行う。

調査2) 公的事业とC.C. の位置関係に関する調査

抽出された公的事业とC.C. との位置関係を把握するため、運営者へのヒアリング及び図面採集を行う。

調査3) 公的事业に対する運営者の認識に関する調査

運営者が公的事业による影響をどう捉え、特に悪影響の緩和のために利用者にどう対応したかという点、またC.C. の運営・開設を経済的に支える形で公的事业を実施していない事例については実施しない理由を把握するため、運営者にヒアリングを行う。

(4) 研究フロー

研究のフローをFig.2に示す。1章では研究の概要を述べる。2章ではC.C. の運営・開設を経済的に支えている公的事业の把握・特徴整理と、一部事例が公的事业を実施しない理由を明らかにする。3章では運営を経済的に支えている公的事业の影響と、悪影響緩和のための利用者への対応を明らかにする。4章では2章、3章の成果を踏まえ、運営を経済的に支えている公的事业の特徴別に影響の傾向を明らかにする。5章では開設を経済的に支えている公的事业の影響を明らかにする。6章では成果をまとめる。

1-3. 研究の位置づけ

(1) 「まちの居場所」づくりに関する研究

「まちの居場所」づくりに関連する研究は、2000年以降多く蓄積された。田中ら^{6,9)}、小松ら^{10,11)}、垣野ら¹²⁾、片桐ら¹³⁾や、地域との関係に注目した木多ら¹⁴⁾、松原ら¹⁵⁾、高嶺ら¹⁶⁾の研究が主な研究として挙げられる。またこれら研究者のうち数人も参加して編纂され

Fig.2 Flow of the research

た書籍¹⁾には、「まちの居場所」の計画の手がかりとして、12の要点がまとめられている。

(2) 施設における「居場所づくり」に関する研究

「居場所づくり」と公的事業との関係という観点では、特定の公的事業に基づく、老人ホーム等の施設内における、施設利用者のための「居場所づくり」の研究の蓄積も多い。施設の計画プロセスに着目した浜崎ら¹⁷⁾、外部との中間領域の重要性を指摘した定行ら¹⁸⁾、斎尾ら¹⁹⁾、細田ら²⁰⁾の研究が挙げられるが、基本的に誰でも利用可能で運営者の裁量によって柔軟に運営できる「まちの居場所」づくりと「公的事業」との関係とは異なる視点である。

(3) 「まちの居場所」づくりと公的事業の関係に関する研究

以上のような研究はいずれも本研究の理論的枠組構築の上で重要だが、本研究で重要視するのは、「まちの居場所」づくりを経済的に支援する形で公的事業が実施される際に、「まちの居場所」と公的事業がどのような関係を築くかということであり、この点に着目した研究はまだ少ない。類似した視点を持つ研究としては、「まちの居場所」の制度化・施設化の危険を指摘した田中⁶⁾の研究が挙げられる。

(4) 本研究の位置づけ

本研究は「まちの居場所」づくり、「施設における『居場所づくり』」と続き、公的事業の拡大を背景とした新たな領域『「まちの居場所」づくりと公的事業の関係に関する研究』に位置づけられる。そして関係構築のあり方について、多数の先進事例を対象とする点で独自性を持つ。

2. C.C. と公的事業の基本的関係

2-1. 運営・開設を経済的に支えている公的事業の基本情報

調査1の成果として20の事例から、運営に対して40、開設に対して10、計50の公的事業が挙げられた。それらを内容に基づき整理した(Table2,3)。大半の事例(15事例)では1～3種類程度の公的事業を実施していたが、それ以上の多数の公的事業を実施している事例も5つあった。またC.C.の運営・開設を経済的に支える

Table2 Classification of governmental programs grasped

	分類 Classification	例 Example	No. of programs	No. of cases
For management	高齢者福祉(重度) Elder care (severe)	通所介護事業 Outpatient day long-term care program	16	6
	高齢者福祉(軽度) Elder care (mild)	介護予防・日常生活支援総合事業 General services for long-term preventive care and daily living assistance program	10	8
	まちづくり・集会 Community development	市民提案型協働事業 Civic collaboration proposal program	7	6
	障がい者福祉 Disability welfare	障害児(者)生活サポート事業 Life support program for disabled individual	4	2
	児童福祉 Child welfare	地域子育て支援拠点事業 Regional childcare support center program	3	3
For opening	市民活動拠点整備 Establishment of a community's base	ヨコハマ市民まち普請事業 Yokohama shimin machibushin program	6	5
	空き店舗活用 Use of vacant store	舞鶴市商店街にぎわい創造事業(舞鶴市) Maiduru-shi creation of vigor for shopping street program	4	4

Table3 Governmental programs grasped

Mark of the case	For management					For opening	
	Elder care (severe) B-1	Disability welfare B-2	Child welfare B-3	Elder care (mild) A-1	Community development A-2	Establishment of a community's base	Use of vacant store
a		○			◎		■
b							■
c							■
d				●			
e				○		■	
f	○			◎◎		■	
g				◎	●		■
h	○			◎◎		■	
i					◎		
j					◎		
k	◎●				◎◎		
l		○○◎			◎◎		
m					●		
n				●			
o							
p	○○○○						
q	●		●			■	■
r			●				■
s							
t	○○○○○○○				◎	■	
u				◎			
v				●		■	
w				○●			
x			●				
y							

Legend

Governmental programs

for management { Separated type : ○
Temporary share type : ◎
Constant share type : ●

for opening : ■

形で公的事業を実施していない事例も5つあった。

運営を経済的に支えている公的事業の内容として多く挙げられたのは[高齢者福祉(重度)]であり、[高齢者福祉(軽度)]、[まちづくり・集会]、[障がい者福祉]、[児童福祉]と続いていた。また開設については[市民活動拠点整備]、[空き店舗活用]と続いていた。

2-2. 運営・開設を経済的に支えている公的事業

(1) 運営を経済的に支えている公的事業

把握された公的事業と、各事例との基本的な関係を把握するため、以下2点についてたずねた。

①必要性：C.C.の経営に欠かせない事業か否か。

②費用負担内訳：公的事業によって得た補助金、委託金、報酬をC.C.のどの経費に充てているか。なお主な経費として、人件費(謝金を含む)、家賃(取得に要した借金の継続的返済を含む)を設定した。

Table4 Use of governmental programs

分類 Classification	No. of programs	必要性 Necessity		C.C.の運営経費の負担実態 Actual state of expenses from the programs			必要性によって基幹／補助事業に分類 Classification by necessity into Base / Ancillary
		Necessary	Non-necessary	Rent	The cases without rent	Personal expenses	
Elder care(severe)	16	16	0	15	1	15	B-1
Elder care (mild)	10	1	9	6	3	7	A-1
Community development	7	1	6	3	1	5	A-2
Disability welfare	4	4	0	4	0	4	B-2
Child welfare	3	3	0	2	1	3	B-3

Fig.3 Typologies of positional relation between community cafe and governmental programs

結果を公的事業の内容ごとに整理した (Table4)。5つの公的事業は必要性によって、専ら運営に欠かせないと捉えられている〔高齢者福祉 (重度)〕、〔障がい者福祉〕、〔児童福祉〕と、そうとは捉えられていない〔高齢者福祉 (軽度)〕、〔まちづくり・集会〕の2種類に分けることができる。これ以降、前者を「基幹的事業 (Base Program)」、後者を「補助的事業 (Ancillary Program)」とよび、またそれぞれ該当事業数の多い順に番号を振る。

また費用負担内訳をみると、基幹的事業については支払いが無い事例を除きすべての事業で家賃、人件費を負担していた。一方補助的事業も多くの場合で家賃、人件費を負担しているが、その割合は基幹的事業ほど高くなかった。

(2) 開設を経済的に支えている公的事業

開設を経済的に支えている公的事業の有無を事例ごとに整理したところ、対象とした25事例のうち、該当する事例は8あった。

2-3. 運営を経済的に支えている公的事業との位置関係

続いて調査2の成果を基にC.C.と運営を経済的に支えている公的事業との位置関係の実態を整理する。

調査2では、常時誰でもが来訪できる空間をC.C.の拠点とし、図面を採集した。その上で、運営を経済的に支えている公的事業の実施拠点を把握した。その際、事業の実施が恒常的であるか一時的 (週1日など) であるかという点も区別して記録した。そしてC.C.と公的事業との位置関係を模式化し、各事業を以下の3種類に分類した (Fig.3、前掲のTable3)。

- 【a 分離型】…C.C.の拠点外で公的事業が実施される場合
- 【b 一時共用型】…C.C.の拠点内で、一時的に公的事業が実施される場合
- 【c 恒常共用型】…C.C.の拠点内で、恒常的に公的事業が実施される場合

Table5 Contents and typologies of positional relation

		No. of programs (cases)	Classification of programs by typologies of positional relation		
			a	b	c
No. of programs (cases)		40 (19)	19 (8)	10 (8)	11 (10)
Classification of programs by contents	B-1	Elder care (severe)	16 (6)	13 (4)	1 (1)
	B-2	Disability welfare	4 (2)	3 (2)	1 (1)
	B-3	Child welfare	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	A-1	Elder care (mild)	10 (8)	3 (3)	3 (3)
	A-2	Community development	7 (6)	0 (0)	5 (4)
Legend:		ratio =	No. of programs of a certain content and a certain positional relation / No. of programs with a certain content		
			0.50 > ratio > 0.00		
			ratio ≥ 0.50		

れる場合

位置関係による事業分類と、Table1に示した内容による事業分類との関係を整理すると (Table5)、[B-1 高齢者福祉 (重度)]の公的事業を中心に【a 分離型】に該当する事業数が最も多く、他に[B-3 児童福祉]、[A-1 高齢者福祉 (軽度)]の公的事業は【c 恒常共用型】が、[A-2 まちづくり・集会]の公的事業は【b 一時共用型】が特に多くなっている。

2-4. 公的事業を実施しない理由

本節では調査3の成果を基に、一部事例がC.C.の運営・開設を経済的に支える形で公的事業を実施しない理由を把握する。そのため、対象となる5事例が述べた公的事業を実施しない理由を整理した (Table6)。

Table6 Reasons for inexecution of governmental programs

理由 Reason	No. of cases	言及例 Example of reference (Mark of the case)
適した公的事業がない Lack of a suited governmental programs	4	・近隣の市町村の生徒さんも居ますので。(自治体)からお金は頂いていません。We don't use a governmental program, because we have users from out of the city. (s) ・当時は行政と噛み合わなかったんです。We couldn't get along with the government at that time. (i)
公的事業への無関心 Indifference to governmental programs	1	・NPOで動くというところにエネルギーをかけたくなかった。I didn't want to take time to persuade our NPO to work for the program. (y)

結果、「公的事業への無関心」を挙げる事例が1つあったものの、総じて多くの事例で「活動に適した公的事業がない」ことを理由として挙げていた。

3. 運営を経済的に支えている公的事業の影響と対応

本章では調査3の成果を基にC.C.の運営を経済的に支えている公的事業の影響と、特に悪影響緩和のための対応を明らかにする。

3-1. 影響の把握方法

運営を経済的に支えている公的事業の好影響、悪影響の把握方法を記す。

- ① 調査1)において挙げられた各公的事業について、調査3)において、C.C.に対する公的事業の好影響および悪影響を運営者に尋ね、それぞれの回答を好影響、悪影響として把握した。
- ② 一部の事例において、①の質問への回答以外の説明中に、C.C.に対する公的事業の影響を述べていると考えられる発言があった。具体的には、公的事業の実施およびそれに伴う利用者の来訪、設備の整備、社会関係の構築が、C.C.に寄与するという認識が運営者の発言から読み取れる場合には好影響として、一方その障害になるという認識または懸念^{注6)}が読み取れる場合には悪影響として判断、把握した^{注7)}。

3-2. 公的事業の影響

3-1に示す方法によって把握された公的事業の影響について分類した所、Fig.4のように整理することができた。好影響を認識している事例は計14事例ある。好影響の内容としては、利用について「利用者の増加・幅の拡大」、「学び・助け合いの発生」が、運営について「活動の幅の拡大」が、地域との関係について「ネットワークの拡大」、「近隣からの信頼の増大」が挙げられた。また悪影響を認識している事例は計14事例ある。悪影響の内容としては、利用について「利用者の偏りの発生」、「利用者トラブルの発生」が、運営について「負担の増大」、「運営の制約の発生」が、地域との関係について「地域からの誤解の発生」が挙げられた。なお運営に対する好影響として、経営の安定に寄与したことが多く言及されたものの、調査では費用負担のある公的事業を聞き出しているため、分析から省いた。

3-3. 悪影響を緩和するための利用者への対応

悪影響を緩和するための利用者への対応について、運営者が述べた内容を分類した結果、Fig.5のように整理することができた。なお分類にあたっては、運用／施設・設備を分けて整理した。結果、運用による対応としては「交流の促進」、「運営体制の強化」、「誰でも利用できることの情報発信」、「ネットワークの活用」、「専門的行為の抑制」、「来訪者の受容」が、施設・設備による対応としては「専

	利用への影響 Influences on use	運営への影響 Influences on management	地域との関係への影響 Influences on relationship with locals
好影響 Beneficial influences [該当事例数 n=14]	利用の増加・幅の拡大 User increase and diversification [n=10] ...Users of community cafe increase and diversify because of visit by users of governmental programs. 【Examples of remarks】 (事例 e) に行っていないけど、(公的事業を契機に) 来る人も居ますね。Some users came after the governmental program. (e) (公的事業利用者の) お年寄りのとこに来てもらうと良いねって、一緒にしたりして。そのときはここ (C.C. の拠点) でお茶飲んだりして。Some users of the governmental program have tea here. (h) (公的事業利用者の来訪により) 多世代交流のようなコミュニティカフェという認識がひろまっていくとか。This place comes to be recognized as a community cafe for multigenerational people. (g)	活動の幅の拡大 Broadening of activities [n=4] ...Activities of community cafe broaden because of execution of governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業) は看護師さんが来る一おしゃべりにきて、待合室のようにしたとどう？と。ちょっとした相談はできます。悩み相談とか。A nurse will come for the governmental program. Users talk with them. (i) (公的事業利用者の絵画作品に対して) こういう個性があってもだれにも真似できなかつたり、ダウンの子だと優しい絵がかけたり、あたたかいよねとか (みな話題にする)。Users talk positively about paintings by disabled people. (a)	ネットワークの拡大 Network expansion [n=8] ...Networks around manager of community cafe expand because of use of governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業) のネットワークが一応あるので、子育てネットワークの研修とかに出たりとか。We attend meetings for the organizations join the governmental program. (x) (公的事業実施者同士の) 横の連携も有って。We have networks with groups using the program. (l) (公的事業) を始める前提条件として、区社協やケアプラザとの連携が必要であり、結果的にそうした支援機関や地域の団体との関係が強くなった。We strengthen the relationships with public institutions such as the care plaza, for a start. (g)
	学びの機会の発生 Learning opportunity [n=5] ...Learning opportunities for users of community cafe arise because of contact with users of governmental programs. 【Examples of remarks】 (居場所利用者の人たちに) 地域にこれだけこういう人達 (障がい者) がいると、認知していただける。Users come to know existence of disabled people. (a) 小さいときから来ている子どもたちは、～(公的事業利用者の) おじいちゃんおばあちゃんたちとも全然普通に喋れる。Children have come here since they are infant, are used to talk with elderly. (t)	負担の増大 Burden increase [n=9] ...Burden of management of community cafe increase because of paper works for governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業のために) 何かにつけて領収書領収書と。面倒といえは面倒。It is troublesome to obtain receipts for the governmental programs. (u) 悪影響は (公的事業のために) 事務が煩雑になったということ。これを作るために何回も (役所に) 行かないと。Desk works became troublesome because of the governmental program. I have to visit the city hall often. (d) (公的事業のために) 無理やり要支援の人に依頼してくださないと頼むするのはちょっと違うんですよ。I don't want to ask users to use the governmental program. (w)	近隣からの信頼の増大 [n=5] ...Trust acquisition from neighbors because of recognition of using governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業によって) 地域の方が、なんかあったらここにあるから相談すると、Some neighbors come here for advice because of the governmental program. (h) これ (公的事業) をやることで、(事例 g) が社会的な、地域課題に取り組んでいることがより濃くみえる。The governmental program let us appeal that we tackle with social issues. (g)
悪影響 Detrimental influences [n=14]	利用者の偏りの発生 Problematic user tendencies [n=6] ...Problematic user tendency arise in community cafe because of visit by users of governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業があることで利用者の) 幅が広がらないんですね。もうちょっとアバウトに、大きく、やってもらえれば、皆さん誰でも来れて。We want the governmental program broader so that various people can come freely. (h) こういう活動 (公的事業) をしていると、利用者が限定される。そういうことは現実であります。It is true that the program impedes some of the users. (p)	運営の制約の発生 Management restrictions [n=8] ...Restriction for management of community cafe arise because of rules of governmental programs. 【Examples of remarks】 こういうふうに使えないとか、こういう事業には人件費が出るけど、こういうのは出ませんとかあるので、それは当然、(公的事業には) いろいろ制約があります。The governmental program has restrictions for using of the budget. (r) もうちょっと (公的事業が) 自由に使えると良いなと思います。I hope we can use the budget more freely. (j) (公的事業) のプログラムで、例えばカフェ営業中にみんなで歌ったりするのは難しい。It is not good to conduct programs such as singing, while our cafe is open. (g)	地域からの誤解の発生 Misunderstanding by locals [n=6] ...community Cafe get misunderstood by locals because of recognition of using governmental programs. 【Examples of remarks】 要支援じゃない女性の方が、じゃあ要支援じゃないから来ない方が良いのねといった。A woman misunderstood that certification of needed long-term care is necessary to visit. (w) 区民活動支援センターは自治会支援も行うと (自治体) が決めたんです。(関連する公的事業を実施する事例 g) もそうなのかと自治会の方が思われて。(事例 g) に、俺達の何がわかるんだと～反発を招いてしまった。When the other governmental program from what we use are announced to support local groups, we are misunderstood to support local groups. (g)
	利用者トラブルの発生 Troubles among users [n=5] ...Troubles among users of community cafe occur because of visit by users of governmental programs. 【Examples of remarks】 (公的事業利用者の) 知的の方は誰彼構わず話しかけてしまうことが有って。ここに例えば団地の奥様がおしゃべりしてご飯食べているときに、質問攻めにしてしまつて。Some disabled people talk too much to others such as women visit here for lunch. (l) (公的事業利用者の) 認知症のおばあちゃんが～人の弁当食べたりして、「かまへんかまへん」って言うてくれるグループもあれば、「つまみだしてくれ」いうて。An older women with dementia had eaten lunch of others. Some users allow her, but some not. (t)		

Fig.4 Influences of governmental programs on management of community cafe

Fig.5 Managers' response methods for reducing detrimental influences

Table7 Reference examples of influence and response methods

①-1 Problematic user tendencies	→ Reduction of specialized behavior
子どもがいなくて来れないとか、話題が偏ってしまうかなというの思う。We worry about some people without children feel uncomfortable, cannot join communication.	→ (子育てに関する話題だけでなく) 普遍性のある話を持っていくように、声掛けをする。We talk general things instead of talks about child rearing. (x)
①-2 Problematic user tendencies	→ Removal/hiding of specialized facilities
(一般的なイメージの公的事業の施設)だとその人達しか来れないでしょ。～(同じ)家具で揃えるじゃん。だからなんかおかしいこと。Visitors are limited for a usual facility of the governmental program. It is not good for those facilities to use same furnitures.	→ 手垢のついた家具をもらって使うから～日常空間を演出できる。We create casual place with having second hand furniture given by others. (q)
①-3 Troubles among users	→ Strengthening of management team
(公的事業利用者の) 知的の方は誰彼構わず話しかけてしまうことが有って。ここに例えば団地の奥様がおしゃべりしてて飯食べているときに、～質問攻めにしてしまっ。Some disabled people talk too much to others such as women visit here for lunch.	→ このあいだ精神障がいに関する研修をスタッフにやっただけです。We had a lecture about mental disorder. (l)
③ Management restrictions	→ Removal/hiding of specialized facilities
(公的事業のために) 一部空間を仕切る必要がある。We need to separate a space for the governmental program.	→ 仕切りは、視覚的にもじゃまにならないもので作ってくださいとお願いしている。We ask carpenters to make a partition not prominent. (q)
④-1 Misunderstanding by locals	→ PR about welcoming everyone
(公的事業の) 名前もついているので、～誰でも来るところなんだよというのを分かってもらうことが(難しい)。We are called as place for the governmental program, it is difficult to make others understand that everyone can come.	→ まずは来て下さいと言って、～いろんな人がいるということを体験してもらおうというのが一番。We ask people to come to know about here with various experience. (x)
④-2 Misunderstanding by locals	→ Reduction of specialized behavior
要支援じゃない女性の方が、じゃあ要支援じゃないから来ない方が良いのねと接したり。A woman misunderstood that certification of needed long-term care is necessary to visit.	→ 要支援よと言われたら認識しておいて。それを知ったからといってすぐ登録してくださいとは言わず。～ガツガツしない。We recognize people in need of care, but we don't ask them for the program quickly. We don't pay too much attention for the certification. (w)
Legend (a~y) : Mark of the case	

専門的設備の設置」「空間的分節」「専門的設備の除去・隠蔽」が挙げられた。なお、運用による対応のうち「交流の促進」については小分類として「活躍場面の創出」「相互理解の促進」「交流の投げかけ」「間口の広いイベント・食事会の実施」が、「運営体制の強化」については小分類として「スタッフの拡充」「収入源の開拓」「理念の確認」が挙げられた。

また運営者の対応のあり方について、何らかの具体的な行為を行うことによる対応と、特定の行為を抑制することによる対応という、姿勢の異なる対応が存在していることが分かった。このことから以降では前者を「積極的」対応、後者を「消極的」対応と呼び、対応の大分類として扱うこととする。

3-4. 影響別にみる対応の傾向

公的事業の悪影響をうけて運営者がどのような対応をとったかという傾向について、運営者の語りから分析した。具体的には、公的事業の悪影響とそれに関係して述べられた対応の組み合わせ(Table7に例示)について、事例毎に整理した。そして組み合わせ毎に、該当する事例の数をカウントした。さらにその値を各影響の該当事例数で除した(Fig. 6)。ここから、次のような傾向がわかった。

①利用への悪影響の緩和のため、運営者は幅広い方法で対応している。しかし共通して行われている「交流の促進」を除いて、2つ

C.C. に対する公的事業の影響 Influences of governmental programs on community cafe			対応 responses	No. of cases	Positive																		
					Operation										Facility equipment								
					Promotion of interaction					Strengthening of operation team					Facility equipment		Operation		Facility equipment				
					Sub Total	Creation of rewarding work	Promotion of mutual understanding	Inducement for interaction	Holding of event / party for everyone	Sub Total	Improvement of staff	Creation of source of income	Confirmation of a principle	PR about welcoming everyone	Use of network	Installation of specialized facilities	Segmentation of space	Reduction of specialized behavior	Acceptance of user	Removal/hiding of specialized facilities			
Detrimental Influences	Use	Problematic user tendencies	6	0.50	0.17	0.17	0.00	0.17	0.17	0.17	0.00	0.00	0.33	0.33	0.33	0.17	0.50	0.00	0.50				
		Troubles among users	5	1.00	0.20	0.60	0.40	0.00	0.60	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.40	0.20	0.40	0.00					
	Management	Burden increase	9	0.11	0.00	0.00	0.00	0.11	0.22	0.22	0.00	0.00	0.11	0.22	0.00	0.00	0.11	0.11	0.00				
		Management restrictions	8	0.38	0.25	0.13	0.13	0.13	0.38	0.13	0.13	0.13	0.13	0.00	0.13	0.13	0.38	0.00	0.50				
		Relationship with locals	Misunderstanding by locals	6	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.17			
			Legend :		ratio = $\frac{\text{No. of cases associate a certain response method with a certain influence}}{\text{No. of cases with a certain influence}}$																		
					0.50 > ratio ≧ 0.25 ratio ≧ 0.50																		

Fig.6 Response methods for reducing detrimental influences

の影響の緩和のために行われる対応は異なる。「利用者の偏りの発生」の緩和については、多くの事例が消極的対応のうち「専門行為の抑制」、「専門的設備の除去・隠蔽」によって対応している (Table7 中①-1 および①-2)。一方「利用者トラブルの発生」の緩和については、多くの事例が積極的対応のうち「運営体制の強化」によって対応している (Table7 中①-3)。

②運営への悪影響のうち「負担の増大」の緩和については、運営者はさほど対応していない。

③運営への悪影響のうち「運営の制約の発生」の緩和のために、運営者は幅広い方法で対応している。特に多くの事例が消極的施設・設備である「専門的設備の除去・遮蔽」によって対応している (Table7 中③)。

④地域との関係への悪影響のうち「地域からの誤解の発生へ」の緩和のために、運営者は積極的運用のうち「誰でも利用できることの情報発信」と消極的運用のうち「専門的行為の抑制」によって対応している (Table7 中④-1 および④-2)。ただし目立って多くの事例が行う対応方法はない。

4. 運営を経済的に支えている公的事業の特徴別の影響

本章では2～3章の成果を踏まえ、内容、位置関係といった特徴別に、運営を経済的に支えている公的事業のC.C.への影響の傾向を明らかにする。

4-1. 内容別にみる公的事業の影響

内容別に公的事業の影響の傾向を明らかにするため、それぞれの影響が、どういった内容の公的事業に起因していたかという点を事例毎に整理した。そして公的事業の内容と影響との組み合わせ毎に該当する事例数を集計し、各事業に該当する事例数で除した (Fig. 7)。ここから、次のような傾向がわかった。

C.C. に対する公的事業の影響 Influences of governmental programs on community cafe		公的事業の空間共用実態による分類 Governmental programs (classified by contents)	No. of cases	Elder care (severe)					Child welfare	Elder care (mild)	Community development
				B-1	B-2	B-3	A-1	A-2			
				Disability welfare							
				Elder care (severe)							
Beneficial Influences	Use	User increase and diversification	0.33	0.50	0.33	0.38	0.50				
		Mutual learnings and cooperations	0.33	1.00	0.33	0.00	0.33				
	Management	Broadening of activities	0.17	1.00	0.33	0.13	0.17				
		Relationship with locals	Network expansion	0.33	0.00	0.33	0.25	0.67			
			Trust acquisition from neighbors	0.50	0.00	0.00	0.13	0.17			
Detrimental Influences	Use	Problematic user tendencies	0.50	0.00	1.00	0.13	0.00				
		Troubles among users	0.50	1.00	0.33	0.00	0.17				
	Management	Burden increase	0.33	0.50	0.67	0.50	0.17				
		Relationship with locals	Management restrictions	0.33	0.50	1.00	0.25	0.17			
			Misunderstanding by locals	0.33	0.00	0.33	0.25	0.17			
Legend :			ratio = $\frac{\text{No. of cases associate a certain influence with a certain content}}{\text{No. of cases with a certain content}}$								
			0.50 > ratio ≥ 0.25 ratio ≥ 0.50								

Fig.7 Influences of each content of governmental programs for management

- ① [高齢者福祉 (重度)] に関する事業は特に、地域との関係への好影響のうち「近隣からの信頼の増大」、利用への悪影響の要因として捉えられている。
- ② [障がい福祉] に関する事業は特に、「利用者の偏りの発生」を除く利用・運営への好/悪影響の要因として捉えられている。
- ③ [児童福祉] に関する事業は特に、利用への悪影響のうち「利用者の偏りの発生」、運営への悪影響の要因として捉えられている。
- ④ [高齢者福祉 (軽度)] に関する事業は特に、運営への悪影響のうち「負担の増大」の要因として捉えられている。
- ⑤ [まちづくり・集会] に関する事業は特に利用への好影響のうち「利用の増加・幅の広がり」、地域との関係への好影響のうち「ネットワークの拡大」の要因として捉えられている。
- ⑥ 総じて基幹的事业は補助的事业と比較して多くの影響の要因として捉えられている。

4-2. 位置関係別にみる公的事業の影響

位置関係別に公的事業の影響の傾向を明らかにするため、それぞれの影響が、どの位置関係の分類の公的事業に起因していたかという点を事例毎に整理した。そして位置関係の分類と影響との組み合わせ毎に該当する事例数を集計し、各事業に該当する事例数で除した (Fig. 8)。ここから、次のような傾向がわかった。

- ① 【a 分離型】の事業は全ての好影響と、利用への悪影響のうち「利用者トラブル」、運営への悪影響の要因として捉えられている。特に目立つ形で、運営への好影響のうち「利用の増加・幅の拡大」の要因として捉えられている。
- ② 【b 一時共用型】の事業は全ての影響の要因として捉えられている。特に目立つ形で、利用への好影響のうち「利用の増加・幅の拡大」、地域との関係への好影響のうち「ネットワークの拡大」、運営への悪影響のうち「負担の増大」の要因として捉えられている。

C.C. に対する公的事業の影響 Influences of governmental programs on community cafe		公的事業の空間共用実態による分類 Governmental programs (classified by typologies of positional relation)	No. of cases	Separated type			b Temporary share type	c Constant share type
				a				
Beneficial Influences	Use	User increase and diversification	8	8	10			
		Mutual learnings and cooperations	0.50	0.63	0.30			
	Management	Broadening of activities	0.38	0.38	0.20			
		Network expansion	0.25	0.25	0.10			
	Relationship with locals	Trust acquisition from neighbors	0.25	0.63	0.20			
			Trust acquisition from neighbors	0.25	0.38	0.10		
Detrimental Influences	Use	Problematic user tendencies	0.13	0.25	0.40			
		Troubles among users	0.38	0.38	0.20			
	Management	Burden increase	0.38	0.50	0.40			
		Management restrictions	0.25	0.38	0.60			
	Relationship with locals	Misunderstanding by locals	0.13	0.25	0.40			
			Misunderstanding by locals	0.13	0.25	0.40		
Legend :			ratio = $\frac{\text{No. of cases associate a certain influence with a certain positional relation}}{\text{No. of cases with a certain positional relation}}$					
			0.50 > ratio ≥ 0.25					
			ratio ≥ 0.50					

Fig.8 Influences of each typology of positional relation of governmental programs for management

る。

- ③【c 恒常共用型】の事業は利用への好影響のうち「利用の増加・幅の拡大」と、「利用者トラブルの発生」を除く悪影響の要因として捉えられている。特に目立つ形で、運営への悪影響のうち「運営の制約の発生」の要因として捉えられている。

4-3. 公的事業の特徴別の影響

以上のような成果を踏まえ、公的事業の特徴別に C.C. への影響の傾向を取りまとめると、Fig.9 のように示すことができる。内容に基づく事業分類はさほど明瞭に影響しない。しかし基幹的事业は補助的事业と比較して影響の要因として捉えられている。一方位置関係に基づく事業分類は比較的明瞭に影響している。

特に多く認識される影響は、基本的にいずれの位置関係分類も要因として認識されている。しかし恒常的に共用していない【分離型】【一時共用型】の公的事業は好影響の、空間を共用する【一時共用型】【恒常共用型】の公的事業は悪影響の要因として認識されやすいという傾向を読み取ることができる。

Fig.9 Characteristics of governmental programs and influences

5. 開設を経済的に支えている公的事業の影響

本章では C.C. の開設を経済的に支えている公的事業の影響を明らかにする。

5-1. 公的事業の影響

C.C. の開設を経済的に支えている 10 の公的事業の影響を、Table8 のように整理した。なお好影響・悪影響の判断は、3-1 に示した方法と同様である。

Table8 Influences of governmental programs for openings		
理由 Reason	No. of cases	言及例 Example of reference (Mark of the case)
ネットワークの拡大 Network expansion	2	・やはり制度つくっている県からの交流というか。いろんな他の事例との交流とか。The prefecture induces us to interact with other managers using the program. (h)
活動の幅の拡大 Broadening of activities	1	・商店会のソフト支援事業やりなさいってことになりました。I was asked to support the store association. (g)
近隣からの信頼の増大 Trust acquisition from neighbors	1	・県という名前を出すと、市から補助金いただいていることも、皆様安心していただける。We can gain trust from neighbors by telling the use of the fund by prefecture and city. (t)
負担の増大 Burden increase	1	・(自治体の期待) に応えたいと思い。～土日に開けてたんです。～それが結構大変で。I wanted to answer the government's expectations. So I opened here on weekend voluntarily. It was tough. (r)

結果、「活動の幅の拡大」、「近隣からの信頼の増大」、「ネットワークの拡大」という好影響、「負担の増大」という悪影響が挙げられた。悪影響は 1 つの事業に対してのみ挙がっていたことから、開設を経済的に支えている公的事業については、悪影響をうけた対応についての分析を省くこととした。

5-2. 内容別に見る公的事業の影響

内容別に公的事業の影響の傾向を明らかにするため、公的事業の内容と影響との組み合わせ毎に該当する事例数を集計し、公的事業の該当事例数で除した (Fig. 10)。

ここから、開設を経済的に支えている公的事業の場合、内容によって影響がことなるものの、いずれの内容の事業も特に目立って影響の要因としては捉えられていないことが分かった。

公的事業の内容分類 Governmental programs (classified by contents)	影響 Influences	
	No. of cases	Establishment of a community's base Use of vacant store
Broadening of activities	0.00	0.25
Trust acquisition from neighbors	0.18	0.00
Network expansion	0.33	0.00
Burden increase	0.00	0.25

Legend : 0.50 > ratio ≥ 0.25
numerical formula is same as Fig.7

Fig.10 Contents of governmental programs for openings and influences

6. 結論

各章の成果から、先進的な C.C. の運営者による公的事業への認識および悪影響の緩和のための利用者への対応について、以下のようまとめることができる (Fig. 11)。

(1) 運営を経済的に支えている公的事業の C.C. への影響

- 公的事業から受ける利用への好影響としては「利用の増加・幅の拡大」(10 事例)、「学び・助け合いの発生」(5 事例)が、運営への好影響としては「活動の幅の拡大」(4 事例)が、地域との関係への影響としては「ネットワークの拡大」(8 事例)、「近隣からの信頼の増大」(5 事例)が認識されている。一方、利用への悪影響としては「利用者の偏りの発生」(6 事例)、「利用者トラブルの発生」(5 事例)が、運営への悪影響としては「負担の増大」(9 事例)、「運営の制約の発生」(8 事例)が、地域との関係への悪影響としては「地域からの誤解の発生」(6 事例)が認識されている。
- C.C. との位置関係によって、公的事業からうける影響の傾向が異なる。
- 【分離型】の公的事業に対しては、半数以上の事例で「利用の増加・幅の拡大」(好影響)を認識している。他 4 分類の好影響に対しても、1/4 以上の事例が【分離型】の公的事業を要因として認識しており、【分離型】の公的事業は全体的に好影響の要因として認識されやすい。
- 【一時共用型】の公的事業に対しては、半数以上の事例で「ネットワークの拡大」(好影響)、「利用の増加・幅の拡大」(好影響)、「負担の増大」(悪影響)を認識している。他 7 つの影響の分類に対しても、1/4 以上の事例が【一時共用型】の公的事業を要因として認識しており、【一時共用型】の公的事業は全体的に好・悪双方の影響の要因として認識されやすい。
- 【恒常共用型】の公的事業に対しては、半数以上の事例で「運営の制約の発生」(悪影響)を認識している。他 4 分類の悪影響のうち 3 つの分類に対しても、1/4 以上の事例が【恒常共用型】の公的事業を要因として認識しており、【恒常共用型】の公的事業は全体的に悪影響の要因として認識されやすい。

Fig.11 Influences of governmental programs and response methods for reducing detrimental influences

・位置関係とは別に、公的事業の内容が基幹の事業であるほど影響の要因として認識されやすい。具体的に、[高齢者福祉(重度)]は3つの、[障がい者福祉]は6つの、[児童福祉]は3つの影響に対して、半数以上の事例が要因だと認識している。一方[高齢者福祉(軽度)]は1つの、[まちづくり・集会]は2つの影響に対して、半数以上の事例が要因だと認識している。

(2) 公的事業から受ける悪影響の緩和のための対応

・公的事業から受ける悪影響を緩和するために、運営者は利用者に対して様々な方法で対応する。恒常的に空間を共用しない【分離型】【一時共用型】の事業が要因となりやすい「利用者トラブルの発生」の緩和には、主に積極的運用によって対応している。具体的にはこの悪影響を認識した事例の半数以上が「交流の促進」「運営体制の強化」によって対応している。

・空間を共用する【一時共用型】【恒常共用型】の事業が要因となりやすい「運営の制約の発生」、「利用者の偏りの発生」の緩和には、積極的運用だけでなく消極的運用／施設・設備によって対応している。具体的には、「運営の制約の発生」を認識した事例の半数以上が「専門的設備の除去・遮蔽」によって、「利用者の偏りの発生」を認識した事例の半数以上が「交流の促進」「専門的行為の抑制」「専門

的設備の除去・遮蔽」によって対応している。

(3) 開設を経済的に支えている公的事業のC.C.への影響

・「ネットワークの拡大」(2事例)、「活動の幅の拡大」(1事例)、「近隣からの信頼の増大」(1事例)、「負担の増大」(1事例)が認識されている。

(4) 公的事業を実施しないC.C.

・「活動に適した公的事業がない」(4事例)、「公的事業への無関心」(1事例)といった理由から、公的事業を実施しない事例がある。

謝辞

末筆になりましたが、調査にご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。なお本研究の一部は日本学術振興会科学研究費補助事業(課題番号:19K15178)「個々人の健康増進と地域課題解決の相乗効果を生み出す『地域的処方』の理論化」によるものです。

参考文献

- 1) Architectural Institute of Japan : Machi no Ibasho -Sasaeru / Mamoru / Sodateru / Tsunagu, Kajima Institute Publishing, 2019 (in Japanese)
- 2) HAGIWARA Kenjiro : Ibasho - sei no kaifuku to jūitsu no toposu, Shumpusha Publishing, 2018.3
- 3) TANAKA Yasuhiro, SUZUKI Takeshi, MATSUBARA Shigeki, OKU Toshinobu, KITA Michihiro : A study on the formation of the purpose at SIMOSHINJO-SAKURAEN - The social contact on community-cafe, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.613, pp. 135-142, 2007.3(in Japanese)
- 4) TADOKORO YOSHIKI : A Study of Event Activities held at Community Cafe : Questionnaire Survey to Managers, Teikyoku Shakaigaku, No.28, pp.103-125, 2015.3 (in Japanese)
- 5) LIST OF "COMMUNITY CAFE" IN JAPAN, http://tatakauoyaji.com/Closeup/Network/community_cafe.htm, accessed in 2018.6.1
- 6) TANAKA Yasuhiro:Machi no ibasho, shisetsu deha naku. - doutsukurare, unnei, keishousareruka, Suiyosha Publishing, 2019.11 (in Japanese)
- 7) TANAKA Yasuhiro, SUZUKI Takeshi, MATSUBARA Shigeki, OKU Toshinobu, KITA Michihiro : A STUDY ON THE OPENNESS AT COMMUNITY-CAPES - Analysis of the narratives described by masters, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.614, pp.113-120, 2007.4 (in Japanese)
- 8) TANAKA Yasuhiro, SUZUKI Takeshi, MATSUBARA Shigeki, OKU Toshinobu, KITA Michihiro : A STUDY ON THE DAILY ARRANGEMENT OF PLACE : A case on Higashimachi-Machikadohiroba, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.620, pp. 103-110, 2007.10 (in Japanese)
- 9) TANAKA Yasuhiro, SUZUKI Takeshi : A STUDY ON THE ALLOWABLENESS OF PLACE IN THE ESTABLISHMENT PROCESS OF "LOUNGE FOR PARENTS AND CHILDREN : TOPOS" - Through interviews to the host of the place, " Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.636, pp. 379-386, 2009.2 (in Japanese)
- 10) KOMATSU Hisashi, TSUJI Manami, HONG Yumi : THE SPACE, THE OPERATION, AND THE SUPPORTING SYSTEM OF THE PLACES FOR COMMUNITY : Study on the places for community established and operated voluntarily by residents Vol.1, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.611, pp.67-74, 2007.1 (in Japanese)
- 11) KOMATSU Hisashi, TSUJI Manami, HONG Yumi : THE RELATIONSHIP OF THE SPATIAL CHARACTERISTICS, THE OPERATIONAL CONTENTS, AND THE CONNECTION TO THE CONCERNING RESIDENTS ON THE PLACE FOR COMMUNITY FROM THE OPERATORS' STANDPOINTS : A study on the places for community founded and operated voluntarily by residents Vol. 2, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.620, pp. 95-102, 2009.10 (in Japanese)
- 12) KAKINO Yoshinori : A STUDY ON THE CHARACTERISTIC OF SPACES FROM THE VIEWPOINT OF WAY OF CHILDREN'S PLACING - A study on architectural

- planning of “Free Schools” part5, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No.656, pp. 2297-2305, 2010.10 (in Japanese)
- 13) KATAYAMA Megumi, HAYATA Naohiko, FUKUDA Nana: THE POSSIBILITIES AND THE MANAGEMENT OF A COMPLEX-FACILITY FOR CHILDREN AND ELDERLIES AS A HUB FOR INTERGENERATIONAL EXCHANGE - A case study on social welfare corporation “Kenko-en” with back alley strategy from Showa-period, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ) No. 705, pp. 2395-2403, 2014.11 (in Japanese)
- 14) KITA Michihiro: STUDY ON FORMATION OF “A PLACE FOR COMMUNITY” FROM THE ASPECT OF AREA’S CONTEXT: Comprehending formative process of “Higashimachi Machikado Hiroba” in Senri New Town based on the actions of solving issues by the key persons, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 675, pp. 1023-1031, 2012.5 (in Japanese)
- 15) MATSUBARA Shigeki, IWANE Keiko, SUZUKI Takeshi, TANAKA Yasuhiro, OKU Toshinobu, KITA Michihiro: MANAGEMENT AND COLLABORATION WITH THE COMMUNITY OF ‘FUREAI LIVING’ AT PUBLIC HOUSING IN OSAKA PREFECTURE: Relationship between place for the communication managed by residents and the neighborhood environment, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 636, pp. 347-354, 2009.2 (in Japanese)
- 16) TAKAMINE Shota, GOTO Haruhiko: STUDY ON THE GROUP ISOLATION OF “A PLACE FOR COMMUNITY” - Focusing on the case operated by a clinic, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 755, pp. 147-157, 2019.1 (in Japanese)
- 17) HAMASAKI Yuko, ENDOH Yasuhiro: DE-INSTITUTIONALIZATION OF NURSING HOME BY MEANS OF RESIDENTS PARTICIPATION PROCESS, Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering (Transactions of AIJ), No. 547, pp. 111-118, 2001.9 (in Japanese)
- 18) SADAYUKI Mariko, NEHASHI Yuriko: A STUDY ON CHILDREN’S CENTERS’ PROGRAMS FOR TEENAGERS - Comfortable places for teenagers in their neighborhood 1, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 577, pp. 49-55, 2004.3 (in Japanese)
- 19) SAIJO Naoko, HASE Natsuya: DIVERSIFICATION OF PLACE-MAKING FOR CHILDREN AND COMPATIBILITY OF “SAFETY AND SECURITY” WITH “COMFORTABLE SPACES” - A study on “place-making” for children after school, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 614, pp. 33-39, 2007.4 (in Japanese)
- 20) HOSODA Tomohisa: A STUDY ON THE ACTIVITY CONDITIONS OF AFTER SCHOOL BY TYPES OF SERVICE CENTER IN 4 ELEMENTARY SCHOOLS OF MATSUE CITY, SHIMANE PREFECTURE, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 673, pp. 501-509, 2012.3 (in Japanese)

注

注1) 田中はC.C.を「誰もが訪れることのできる場所、気軽に立ち寄れる場所、それぞれが思い通りに過ごせる場所を実現し、このような場所において他者との社会的接触の機会を提供するという目的が掲げられている」³⁾と表現している。また田所はC.C.を「基本的な特性として、利用者を限定しない開放性、利用者間の交流促進と居場所提供、コミュニケーションの活性化、情報交流などを軸に「場所」的な地域交流拠点として運営されている」と表現している⁴⁾。本研究における「コミュニティ・カフェ」の定義にあたっては、これら先行研究を踏まえている。

注2) 地域包括ケアシステムにおける「自助／互助／共助／公助」の分類によれば、一般的に介護保険・医療保険事業は共助だと言われている。しかし、主要な財源として公費が用いられていることや、全国一律で公定価格が設

定されていることから、公的事业に当てはまると判断した。これら事業は行為が定められており、事業単体でC.C.を実施することはできない。しかし事業収入を運営者の判断で、C.C.の経費に充てることは可能である。

注3) 対象選定について以下に詳しく説明する (Fig.12)。

【先行調査の選定方法】

先行調査における調査対象の選定方法は以下の通りである

①「全国コミュニティカフェ連絡会」^(注4) 5) リスト掲載事例から、「高齢者福祉」、「まちづくり」、「コミュニティスペース」、「多世代交流」と分類されている事例を抽出した。これはインターネット上の情報から、これらの分類に属する事例に、先述の抽出条件に適合している事例が特に多いと判断したためである。

②抽出条件に基づいたインターネット調査による選定

インターネットを用いて、本研究が定めた「まちなかの居場所づくり」の抽出条件（後述）に適合しないことが確認された事例を除外した。

③抽出条件への適合および調査協力の承諾のあった事例の抽出

多くの事例で、インターネット上の情報が不十分であったため、以上の抽出作業を経た上で、後述するアンケート調査を用いて抽出条件への適合性を再度確認することとした。

【先行調査の抽出条件】

先行調査実施時に設定した抽出条件としては、①固定・専有の場所で運営されていること、②住民・民間事業者による運営であること、③日常的（週1日以上）に運営されていること、④利用者を限定していないこと、⑤利用者間の交流を促していることを設定した。

【先行調査の実施概要】

アンケートは以下の概要で行った。

調査日：2018年7月26日発送。同年8月31日回答期限。

調査方法：182事例にアンケート用紙を郵送した。アンケート用紙の返送または特設したwebサイトの利用によって回答してもらった。

【本調査にあたっての事例選定方法】

先行調査の分析対象であった51事例から本調査の分析対象である25事例への選定にあたっては、下記手順を踏んだ。

④活動の充実している先進事例を選定するために、活動頻度および利用方法の観点から、週3回未満の開設である事例または特定のプログラム・イベントに参加しなければ利用できない8事例を除外

⑤活動終了が確認された9事例を除外

⑥連絡が取れない、調査拒否などの理由により調査を実施できなかった9事例を除外

注4) この「コミュニティカフェ」とはHP上で「地域社会の中で「たまり場」「居場所」になっているところの総称です。」と説明されている。また一般的な「カフェ」のイメージとことなり、福祉施設や、子育て支援の場など、喫茶機能を伴わない事例も多く掲載されている。このリストにおいて「コミュニティカフェ」はそれほど広い概念として捉えられている。

またリスト作成の方法上、2010年以後に生まれた事例、国や地方自治体やNPOなどとの連携が行われていない事例、HP、書籍などに情報が掲載されていない事例、都道府県別のガイドブックを作成していない都道府県にある事例は、リストから漏れやすい。このため「まちなかの居場所づくり」の活動のうち、一定程度活動が継続し、地域の活動主体との協力関係が有る事例が多くなるといったバイアスが生じている可能性がある。

注5) 現地調査は以下の概要で行った。

調査日：2020年1月12日～2020年3月14日

調査場所：各事例の運営拠点 調査対象者：各事例の代表者

調査方法：半構造化インタビュー・図面採集

調査内容：公的事业の活用実態、拠点空間実態等

調査時間：各事例とも2時間程度

備考：先行調査に関連して現地調査を実施していた事例の一部は電話にて調査した。

注6) 認識だけでなく「懸念」も含めたのは、運営者が公的事业の悪影響を予想し対応することで、悪影響を未然に防いでいる場合があるためである。

注7) 具体例として、調査1)における公的事业の説明にあたり、「(公的事业)を受ける前から沢山の人が利用していて。それまでどの人が要支援かなんて気にしないで、どなたでもどうぞと言っていた居場所なのに。今後、要支援かどうかで(公的事业を受けるために)ケアプランにつながらないと対象にならない」「その面倒くささ」との発言が運営者からあった。この発言は、「どなたでもどうぞ」という「まちなかの居場所づくり」の理念に対して、公的事业が障害になるという運営者の認識または懸念を示していると考え、悪影響として把握した。

Fig.12 Flow of selection of the target cases

HOW GOVERNMENTAL PROGRAMS INFLUENCE COMMUNITY CAFE AND MANAGERS' METHODS FOR MITIGATING DETRIMENTAL INFLUENCES

Shota TAKAMINE^{*1} and *Haruhiko GOTO*^{*2}

^{*1} Research Assoc., Research Innovation Center, Waseda Univ., M.Arch.

^{*2} Prof., Faculty of Creative Sci. & Eng., Waseda Univ., Dr.Eng.

Recently, the word “ibasho” has been attracting increasing attention in Japan. The term initially referred to the physical space that a person occupies; however, since about 1980s, it has come to include mental and social aspects related to the increasing attention that social isolation has received. Considering the various explanations that previous research has offered, “ibasho” can be defined as “the place where people find that they can subjectively acquire a sense of self-receptiveness, self-efficiency or opportunity to relate with others, as influenced by physical and social conditions.”

As society becomes interested in ibasho, more people are attempting to make space for the promotion of others’ quest to find it. With the goal of widening ibasho-making’s currently insufficient economic base, the government has launched new programs to help spread these activities; however, this is occurring amid concerns that such programs can actually be detrimental to the characteristics of making ibasho by, for instance, reducing the flexible management that promote users’ ibasho-finding through the imposition of governmental program regulations.

This paper focuses on community cafes which is representative cases of making of “ibasho”, and aims to clarify how governmental programs influence community cafe as well as managers’ user-directed methods for mitigating detrimental influences. Interviews with managers and field surveys of 25 advanced cases were conducted. Fifty programs related to community cafe were classified by program content and the typologies of positional relation with community cafes. Program content was classified in the following categories: elder care (severe), elder care (mild), community development, disability welfare, child welfare, the establishment of a community’s base, and the use a vacant store. Meanwhile, the typologies of positional relation were classified as follows: separated type, temporary share type, and constant share type.

The results led to the following findings:

- 1) Influences are recognized more when governmental programs are used for management as opposed to when they are used for opening.
- 2) Influences are different for each typology of positional relation between governmental programs and community cafe. The following are frequently recognized influences across every classification of positional relation: network expansion, user increase and diversification, burden increase, and management restriction. In general, the governmental programs that do not share space constantly tend to be perceived as beneficially influential while those that do share space tend to be associated with detrimental influences.
- 3) Base business governmental programs tend to enjoy recognition as influential factors more than their ancillary business counterparts.
- 4) In order to tackle governmental programs’ detrimental influences, managers deal with users in various ways. Positive operations are the main method for reducing the “trouble among users,” which is a detrimental influence that emerges from programs that do not constantly share space. Moreover, positive and negative operations as well as the use of negative facility equipment are the main methods for reducing the “problematic user tendencies” and the “misunderstanding by locals,” which are detrimental influences that emerge from programs that share space. As such, managers’ strategies for reducing detrimental influences also differ for each positional relation typology that is common between governmental programs and community cafes.
- 5) In some cases, governmental programs are not used because managers find lack of a suited government programs.

(2020年4月8日原稿受理, 2020年11月2日採用決定)